

# 広げよう交流の輪 続けよう支援の輪 秋田内陸線



利用者の減少に伴う損失額の増加で廃止か存続かで揺れた秋田内陸線は平成20年9月、当時の寺田秋田県知事、北秋田市長、仙北市長の3者合意により、当面の存続が決定されました。内陸線応援キャラクター「ないりっくん」のPR活動など昨年の取組みと、今後の利用促進活動をお知らせします。

地域の方々や観光客から支持され、愛される内陸線を目指して

サポーターの活動や地域住民の熱心な乗車運動などで、平成20年度の利用者は47万人で前年度よりも2万7000人ほど増加しました。平成元年の開業以来毎年のように減少していた利用者数がようやく下げ止まり、僅かながら増加に転じました。また損失額も2億4200万円の前年度より2000万円ほど減少しました。21年度10月末の利用者は3万7000人で前年同期比では若干上回る状況となっています。

今後は、お座敷列車やごっつお列車の運行、マイルールキャンペーンなどで昨年を上回る利用者の確保に向けた取り組みが実施されます。2月には全線開業20周年を記念して式典やイベントなどが計画されています。21年度から行われている、秋田内陸公共交通連携計画に基づく再生総合事業が22年度も実施されます。紅葉シーズンの列車増発による秋田内陸線の利便性向上や、テレビ、新聞などマスコミを利用した宣伝広告、駅舎内への電子看板設置、内陸線活

性化フォーラムなど秋田内陸線の利活用促進事業を実施し、内陸線の利用者増を図ります。

また4月に開院する市民病院までの2次アクセスとして米内沢駅と市民病院間の路線バス運行や合川駅と市民病院までの乗合タクシーの実証運行が行われます。市役所職員に対する内陸線利用通勤の働きかけ、小・中学生の通学利用への取り組み、沿線ふるさと教育推進事業なども引き続き実施されます。ハード面では安全対策工事が検討されています。老朽化した設備を修繕、交換することで安全・安心・定時運行を確保し、利用者へのサービス向上を図ります。



▲ホームの手すりの塗装ボランティア活動の様子

内陸線をとりまく  
大きな交流・支援・連携の輪

## ◎交流

昨年は内陸線の利用促進として、自治会や会社での親睦会、スポーツ交流大会、各種イベントが数多く行われました。

▽5月5日に開催された県南と県北のサッカー交流大会「サクラカップ」(参加者9チーム・180人)を鷹巣高校グラウンドで開催。また、10月4日も同じく「もみじカップ」として仙北市を会場に開催されています。  
▽7月26日、仙北市西木クラブと阿仁倶楽部の500歳野球の交流大会(参加者40人)

▽9月6日、独身男女の出会いの場「夏のスーパーラブトレイン」で角館散策ゲルメツァー(参加者40人)

▽9月10日「第3回内陸線グラウンド・ゴルフ交流大会」(参加者160人)

▽9月18日劇団四季主催の「こころの劇場」(北秋田市、仙北市の小学校6年生を対象)

## ◎支援

北秋田市建設業協会では、20年度にホーム手摺の塗装、駅舎までの道路やホームの舗装等、内陸線存続へ向け協力しています。今年度は、米内沢駅と合川駅の老朽化した倉庫の解体を行いました。(米内沢駅は秋田土建株、合川駅は株佐藤庫組)

また、各駅の愛護会による清掃・除

雪作業など日常の活動のほかにも、桜庭木材、荒瀬自治会、愛郷愛護会、北秋田市職員労働組合青年部、マタギスタッフ、北秋田地域振興局等による駅舎・ホームの修繕、草刈りなどボランティア作業が行われました。

秋には、やすらぎの駅整備事業(県事業)による内陸線駅周辺への桜の植樹活動が行われ、大野台駅、阿仁マタギ駅などに計6箇所150本ほどの桜が植えられました。今年の春には僅かながらも桜の花が見られそうです。皆さんの協力のもと、沿線の魅力がより高められました。

## ◎地域の連携

内陸線を中心に各種団体による地域の活性を目指した活動が盛んに行われ

## ないりっくん 各地で内陸線PRに大活躍

「ないりっくん」は、地元イラストレーター長牛寿子(鷹巣)さんがデザインした内陸線応援キャラクターです。

昨年9月には着ぐるみを制作しました。その真っ赤なボディと愛くるしい笑顔は子どもから大人まで幅広く人気を集めています。

これまで県内のイベントはもとより東京や仙台にも出向くなど、内陸線と沿線地域を元気にするため、みんなの夢と期待をのせて頑張っています。



(プロフィール)

- ◎名づけ親：地元の保育(幼稚)園の子どもたちが考えてくれた名前です。
- ◎性格：正義感が人一倍強く、心優しい男の子。ウルトラマンのようなヒーローにあこがれています。
- ◎好きなもの：毎日走っている内陸線の景色。きれいな自然の風景と、とてもおいしい山の空気が大好き。
- ◎その他：おじいちゃんや米代児童公園にいる「ポッポしい」です。その温かい目に見守られて、ないりっくんはたくましく成長しています。

ています。最近では、それぞれの団体が連携を取って協力してこうと取り組んでいます。

▽沿線観光  
秋田県、北秋田市、仙北市、商工会、観光協会、内陸線等の協同による東京横浜など首都圏での観光PR、モニターツアーの実施、商品の開発など地元資源の活用を図っています。また、観光アテンドによる内陸線に乗り込む観光案内や特産品の紹介なども行われています。

また、仙北市が事業主体となって進めている「元気再生事業」に、民間団体の内陸線エリアネットワークと、内陸縦貫鉄道の存続を考える会が参加し、阿仁合駅と比立内駅を拠点とした散策ルートや駅舎の検討など、地域資源の発掘と活用について取り組んでいます。

▽公共交通  
昨年度設立された秋田内陸地域公共交通連携協議会は、北秋田市と仙北市から各種団体や行政関係者が集まり、地域交通について協議を重ねています。その中で、内陸線や秋北バスなど各交通事業者との連携を図りながら、新病院などの公共施設と集落を結ぶ路線や、内陸線の駅から集落までの2次アクセス、交通空白地域の解消に向け事業を進めています。